

保育計画成果報告書

法人名等	特定非営利活動法人えがお咲く丘
施設名	長久手くるみ保育園
報告者（役職）	吉田 貴之（園長）
住所・連絡先	愛知県長久手市下山3番地1
	☎ 0561-56-0963 E-mail n-kurumi@hoiku-kurumi.com

○タイトル（保育計画）

元気いっぱい体を動かして、目指せ、未来のオリンピック選手！！
～様々な運動遊びを通じて、心身共に成長できる環境作り～

○主な助成備品

マット、ボールプール、トンネルバランス運動遊びセット、リバーランドスケープ

1. 保育計画策定の目的

本園を利用してくださる方々に充実した保育、サービスを提供するとともに、保育の質もあげていきたいと考えています。

日頃より、戸外での活動を中心に十分に体を動かして活動できるように配慮しています。しかし、雨天や昨今の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、感染リスクを避けて活動する際、室内での活動になることが多く、手作りの平均台、フープなどでは強度や大きさなどに限界があるため、より安全に活動するための配慮を含め、運動遊具の備品購入を希望しました。

遊具の導入により、乳児期に大切な体の動かし方を知ったり、バランス感覚を養ったりするなど、身体的な発達を育むこと。また、友達と体を動かすことを楽しむ中で、心身共に健やかな成長を図りたいと考えました。

2. 具体的な実施内容

雨天や活動によって、室内で運動遊びを行う際に、運動遊具を使用し、思い切り体を動かせる環境を整えました。

【ふわふわクッションマット】

ボリューム満点のマットは、0歳から2歳の子どもたちみんな楽しんでます。バランスを取りながらハイハイや歩行をしているため、



足腰も鍛えられます。大人がジャンプしていても疲れるくらい、弾力のあるマットですが、子どもたちは疲れ知らずで、いつまでも飛び跳ねて遊んでいます。

【ボールプール】



子どもたちに大人気の遊びが「ボールプール」です。ボールで不安定になっているところを、壁に掴まりながら歩いたり、たくさんのボールに埋もれてかくれんぼをしたりしています。みんなバランスを取りながら、起き上がって、またゴロンと寝転がってを繰り返して楽しんでいます。



遊びを重ねるごとに、ボールプールへの出入りも、初めは恐る恐る入っていた子も、積極的に行くようになり、子どもたち自身でできるようになりました。

出入りの際、ボールの中で、子どもたち自身がどのように手を使えばいいのか、足を使えばいいのか、どのようになると転んだりバランスを崩したりするのかなどを考えながら遊んでいる様子が窺えます。

【トンネルバランス運動遊びセット】【軽量連結マット】

今までは別のトンネルを使用していましたが、そのトンネルでは、中の様子を見ることができず、危険な場合もありました。このトンネルバランス運動遊びセットはトンネルをくぐっている様子も見えることで安心して遊ばせることができました。ただトンネルをくぐるのではなく、台の上を落ちないようにバランスを取りながら、ハイハイや歩いていくことで、バランス感覚を養ったり、体幹を使って鍛えられたりと、運動能力のアップにも繋がる遊びができるようになりました。また、2歳児になると、平均台を後ろ向きで歩く



ことに挑戦したり、お玉にボールを乗せて落とさないように歩いたり、子どもたちが考えて、より楽しんだり、難易度を上げてチャレンジしようとしたりする姿も見られました。

軽量連結マットは、このような遊びの際に転倒などした場合に、衝撃が少しでも少なくできるように、下に敷いて遊ぶことで、けがの防止に繋がっています。

【リバーランドスケープ】

落ちないようにバランスを取りながら、歩いていました。集中して何度もグルグル回って歩く子もいました。友だちと向かい合わせになった時は、譲り合ったり、落ちないようにすれ違おうとしたりと、それぞれ試行錯誤しながら楽しむ姿が見られます。月齢の小さい子どもたちはハイハイで跨いだり、少し広いスペース（橋の上）で立ち上がろうとしたりと挑戦する姿が見られます。足の指で踏ん張ったり、平らではない場所をハイハイすることで、バランスを取り、全身を使った運動遊びをすることができます。



3. その成果と評価

日頃から、手作りの平均台やフープなどを使い室内でも運動遊びをしたり、体操をしたりと、体を動かす遊びを行っていましたが、途中で壊れてしまったり、年齢によっては難しい場合もあり、限られた遊びしかできないことが多々ありました。

今回、運動遊具を購入できたことにより、室内での運動遊びが充実し、0歳から2歳の子どもたちが一緒に楽しめる環境を作ることができました。また、回数を重ねるごとに、遊び方も変わってきて、難しい体勢でバランスを取ろうとしたり、遊びを自ら発展させたりと子どもたち自身が考えて、楽しみ方を見つける姿が見られました。また、遊びの中でも順番を守ったり、友だちを気遣ったりと安全に遊ぶためのルールを身につけることができました。また、保育士が準備や片づけをする姿を見て、一緒に行おうとするなど、遊ぶための工程にも、子どもたちが自ら参加して友だちと一緒に一生懸命取り組む姿も見られ、それぞれの成長



を感じることもできました。

体を十分に動かすことで、バランス感覚、手足の動かし方などを身につけ、子どもたちの成長を促していくことができているため、今後も続けていきたいと思えます。

4. 今後の課題と展望

それぞれの遊具を繰り返し使用することで、子どもたちも遊び方を習得していき、成長とともにできることも増えてくると同時に、遊び方が単調になりがちなので、単独で使うだけでなく、複数を組み合わせたり、組み方を変えたりして、変化を付けることで、さらに発展した遊び、活動にしていき、より運動の効果も上がるように工夫していきたいと考えます。また、子どもたちのアイデアも取り入れ、より柔軟な活動が行えるように職員で話し合いながら進めていきたいと思えます。

以上